



保育所保育指針改定に対する 意見書（資料）

東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター（Cedep）



関連する先行研究

※資料提供

遠藤利彦氏（東京大学大学院教育学研究科）

佐治量哉氏（玉川大学脳科学研究所）

清水悦子氏（NPO法人 赤ちゃんの眠り研究所／東京大学大学院教育学研究科博士課程）

アタッチメントに関する先行研究

生涯発達の鍵となるアタッチメント

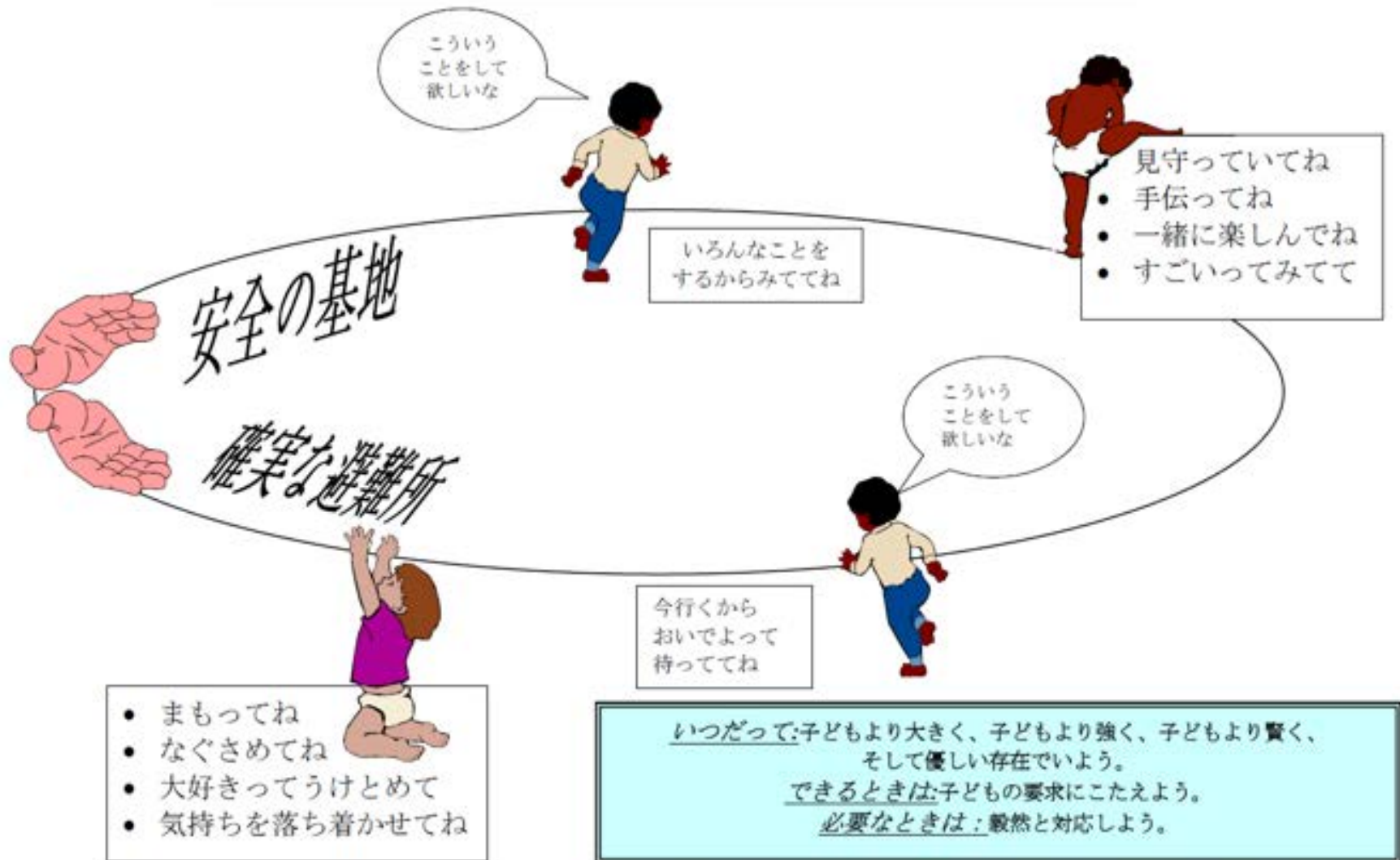
- 子どもは容易に怖がる・不安がる存在
- そして泣きながら身近な誰かにくっつくようとする
- くっついて安全感・安心感に浸ろうとする

= アタッチメント

- 一日に何回も繰り返される至極当たり前のこと
- しかし、これがいかに確実に安定して経験できるかが、生涯に亘る心身の健康な発達の鍵になる

安全感の輪

子どもの要求に目を向けよう



安全感の輪

…→ 危機との遭遇

→ ネガティブな情動経験（恐れ・不安・欲求不満等）

→ 「確かな避難所」への近接（アタッチメント）

→ ネガティブな情動の調節 / 情緒的燃料補給

→ 「安全な基地」からの探索・遊び

→ 危機との遭遇…

- この輪がいかに自然にかつ確実に機能し得るか
 - 子どもの健やかな心身の発達のカギ
- 子どもの成長 = 徐々にこの輪を広げること
一人でいられるようになる

アタッチメントは心身の発達に影響する

心理的発達への影響

- 安定したアタッチメントは、自尊心、自律性、他者への基本的信頼感、心の理解能力などの発達を支え促す
- 保育者とのアタッチメントと社会性や認知の発達との関連も示されている

身体的発達への影響

- 恐れの状態は逃げるための緊急反応であり、心臓・血管・内臓・脳神経系など、身体各所に大きな負担
- 効率よく元通りにされないで形成途上の子どもの脳や身体の発達にダメージ (e.g. 被虐待児)
- アタッチメント→内界と外界の間の「緩衝装置」

睡眠時間に関する先行研究

- 総睡眠時間の減少 = 昼間の睡眠時間の減少

昼間（8：00～20：00）と夜間（20：00～8：00）別にみた全睡眠時間の週齢あたりの変化では、
夜間の睡眠が10時間程度でありあまり変わらないのに対し、
昼間の睡眠は減少

- 睡眠-覚醒のリズムは、月齢・年齢によって変化。
加えて、リズムの個人差への配慮も必要。
- 午睡の時間は、年齢とともに変化。

2004 Sleep in America Pollの1473名を対象とした調査では、
2歳児の43%、3歳児の74%、4歳児の85%、5歳児の98%が
午睡をしないという結果。

施設長の資格要件に関する海外の動向

国（地域）	施設長の資格要件の内容
オーストラリア （クイーンズランド州）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育に関する領域におけるadvanced diploma ・ 幼児教育ないしは保育に関する資格（最低3年以上のコースで取得） ・ 幼児教育ないしは保育に関する大学院資格（最低1年以上のコースで取得）
ニュージーランド	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育省長官が就学前教育施設の教育及び保育に関して認定する資格
アメリカ （40の州・区）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児教育に関する資格取得／訓練の受講／実務経験（州によって異なる） （例：ミシシッピ州：CDA資格（Child Development Associate credential）もしくはミシシッピ・チャイルド・ケア所長資格（Mississippi Child Care Director's credential）と2年の実務経験）
イギリス（大マンチェスター州）	<ul style="list-style-type: none"> ・ レベル4資格を取得済みないしは取得に向けて努力をしているべき（最もレベルの高い資格＝Early Years Professional Status（EYPS））

※西村他(2010) 保育所長の資格及び資格取得方法と その後の研修のあり方に関する研究, 保育科学研究, 1, 22-48. (第2章の内容よりまとめた)



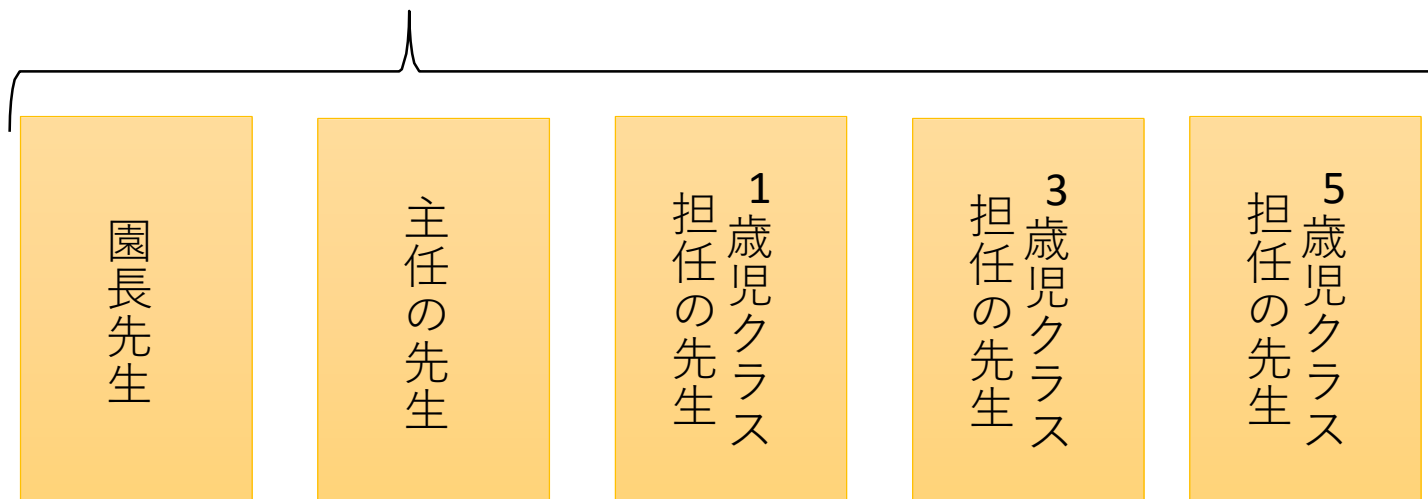
平成27年度 東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター大規模調査
全国の認可保育所対象
大規模質問紙調査の結果

※次ページ以降の内容は分析の途中経過であり、調査全体のねらいや背景、方法、解釈にあたっての留意点などを含め十分ご理解いただいた上で結果を使用いただくことが必要です。このため引用はお控えください。本調査の最終分析結果は、後日正式に発達保育実践政策学センターより、報告会やHPで説明を加え公表予定です。



調査の概要①

- 目的：認可保育所における保育実践および労働の実態を把握すること
- 対象：全国保育協議会に加盟している認可保育所2500園を対象とした質問紙調査を実施
→1園につき5名が回答（回答率約48%※）



※遅着票集計中のため現時点では推計



調査票の設問内容と回答者

●養護(アタッチメント)、食、睡眠に関する設問

1歳児クラス担任：1,330名

3歳児クラス担任：1,327名

5歳児クラス担任：1,306名 による回答

●施設長のリーダーシップ、保育実践・労働環境 負に関わる負担感、自園の保育環境に関わる 評価・認識、安全管理に向けた組織としての 取り組みに関する設問

園長(資格あり)：1,072名

園長(資格なし)： 217名 による回答

※なお、回答に欠損のあった項目はリストワイズされるため、
回答人数は項目によって若干異なっている。



1. アタッチメントに関する提言

設問

- ✓ 子どもたちが求めるときは敏感に応じている
- ✓ 子どもたちが自分の考えや欲求を表現しやすい雰囲気である

上記いずれも「アタッチメント（愛着）の形成」の基本であるにもかかわらず、「とてもそう思う」と回答していない担任保育士が6～7割である現状。

保育所保育指針：

「保育者による子どもへの敏感な応答」だけでなく「子ども自らが考えや欲求を表現しやすい雰囲気への配慮」に関する言及も必要。

2. 食事に関する提言



設問

- ✓ 子ども一人ひとりの発達等に応じ、食事時間を配慮している
- ✓ 子どもの食について保護者と情報共有・相談を受けている

食事は、睡眠とも関連して、発達や概日リズムによる影響を受けると考えられ、個人差への配慮が必要。しかし、上記の個別の配慮に関する項目で、「とてもそう思う」と回答していない保育士が6～8割である現状。

保育所保育指針：

「食育」「基本的な生活習慣」の観点に加え、発達の個人差や個々の生活リズムをふまえ、「より個別的な配慮やかかわり」に関する言及も必要。

3. 午睡に関する提言



設問

- ✓ 子ども一人ひとりの発達等に応じ、午睡の有無等を配慮している
- ✓ 午睡中眠らない子どもは、別の遊び等ができるようにしている
- ✓ 子どもの睡眠について保護者と情報共有・相談を受けている

睡眠は、概日リズム（睡眠-覚醒リズム）による影響を受ける。しかし、上記の個別の配慮に関する項目で、「とてもそう思う」と回答していない保育士が6～8割である現状。

保育所保育指針：

子どもの発達や睡眠-覚醒リズムの年齢による違いや個人差という観点から、「より個別的な配慮やかかわり」に関する言及が、乳幼児期全体に関して必要。



4. 園長の資格要件に関する提言

保育士資格を保有している施設長の方が、

- ✓ 自園の保育質向上のための取り組みをより行っていると回答
- ✓ 保育実践・労働環境に関する負担を強く感じていた
- ✓ 自園の保育環境の適切性を低く評価し、課題を認識していた
- ✓ 安全管理に向けた組織としての取り組みに関する4つの項目について、より積極的に取り組んでいると回答

保育所保育指針：

「施設長の責務」の章に、保育士資格の保有に関する言及は一切ないが、保育の質の保障・向上という観点からは、積極的に保育士資格保有について言及していくことが必要。